

国語解答

1	
小計	2点 (×)
20	(×)
(5)	(1)
塩	あた
	り
5	1
(6)	(2)
並	こと
べる	なる
6	2
(7)	(3)
故郷	ずつう
7	3
(8)	(4)
郵便局	よくぼう
8	4

2			
小計	3点 (×)		
24	(×)		
(2)	(1)		
①	⑤	③	①
庭	自	美	富
15	由	し	ん
②	に	く	
雨			9
			②
16	13	11	
(2)漢字以外不可	⑥	④	
	静	寒	直
	か	か	そ
	な	ろ	10
	14	12	

3										
小計	4点 (×)	減点								
32	(×)	-1								
(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)				
イ	②	①	ウ	螢	ー	エ	ア	送	の	明
24	イ	早	21	光	私	19	18	る	ホ	日
		く		灯	ー				ー	
		行		を	が				ム	上
		っ		っ	兄				で	京
		て		け	の				と	佐
		し		た	部				い	々
		ま			屋				う	木
					に				約	く
					こ				束	ん
					と				。が	を
					て				見	駅
					。て				17	
					、				20	

(1) (別例)「明日、朝イチの列車に乗った加代子を佐々木が駅で見送りするという約束。」
 (別例)「明日、東京へ行く私をホームから佐々木君に見送ってもらうという約束。」
 ・「佐々木が私を見送る」「私が佐々木に見送られる」にあたる内容がないものは0点。「私」は「加代子」でも可。
 ・「上京する・電車の・朝イチの電車の(私)」にあたる内容がないものは-2点。「電車」は「列車」でも可。
 ・「駅で・ホームで(見送る)」にあたる内容がないものは-2点。
 ・「(見送って)くれる・もらう」の有無は問わない。

4						
小計	4点 (×)	小計	2点 (×)			
20	(×)	8	(×)			
(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
ア	て	エ	あ	名	③	①
33	出	31	や	前	カ	オ
	し		ふ	を	27	25
	て		や	知	④	②
	い			ら	ア	イ
	る			ない	28	26
	の			植		
	で			物		
	す			な		
	。			ど		
				29		

(4) (別例)「『私』が兄さんの部屋の蛍光灯のひもを引いたこと。」
 ・「兄の部屋」にあたる内容がないものは0点。
 ・「蛍光灯をつけた」にあたる内容がないものは0点。「蛍光灯」は「電灯・電気・灯り・明かり」でも可。「つけた」は「ひもを引いた・スイッチを入れた」でも可。
 ・「(兄の部屋に)入って」「(兄の部屋の)ドアを開けて」の有無は問わない。

解説

1 漢字の読み書き

2 適当な活用語を考える／漢字のバズル

(2) ①「家庭」「庭木」「庭先」「校庭」という四つの熟語が完成します。

②「風雨」「雨足」「雨水」「大雨」という四つの熟語が完成します。

3 物語（豊島ミホ「檸檬のころ」より）

(1) 直後の二文の内容から、明日、「私」と佐々木くんがどうすることを約束したのかを読み取り、まとめましょう。

(2) 上京する前日の「最後の家族ディナー」だと考えていた夕食は、いつものように、みそ汁にごはん、おかずはほつくと煮物にものでした。「私」は、最後の家族ディナーぐらゐは自分の好物が出るかもしれないという予想を裏切られて、ひょうしぬける気持ちになっています。

(3) このあとの「兄はそういうこと（＝振り返って手を振ったこと）をしない人だと思っていた」などから、「私」が兄をどういう性格の人物だと思っていたのかがわかります。

(5) 直前のお母さんの「子どもって、いなくなるためにいるのかしら」という言葉からは、子どもが家からいなくなることを仕方なく思う気持ちを読み取れ、お父さんの「そんなこと言うなよ」という言葉からは、子どもたちが家から出ていくのをさびしがる気持ちが読み取れます。

(6) 上京する兄を見送るお母さんが何度も兄に話しかけて引き止めていたのを思い返して、「私」は往生おうじょうわ際が悪かったと考えています。それに比べて、自分の見送りのときには母がしつこく引き止めないことを「私」は意外に感じています。

(7) イの「親への感謝の念が一気にこみ上げている」が本文中からは読み取れません。

4 随筆（串田孫一『緑の色鉛筆』所収の「見ることについて」より）

(1) ① 空らんの前で述べられている、「持ちかえることの出来ない場合」の具体例が空らんのあとに挙げられています。

② 空らんの前の、持ち帰れない植物などの特徴をノートに書いてくることについて、空らんのあとでは、ノートに特徴を書いてきてもそれと分かることは少ないと、前に反する内容が述べられています。

③ 空らんの前の、「私」の観察が不完全であることに付け加える形で、空らんのあとでは、「私」の見落としてよって名前がちがう場合の残念さについて書かれています。

④ 空らんの前では、蟻地獄ありじごくの土の盛り上がりにちがいがあることについて述べられ、空らんのあとでは、それが順当な理由となって、土をよく見たことが述べられています。

(2) 直前の段落の中で、「私」が何を家に持ち帰ることについて述べているかを考えます。
(3) 本文中の「曖昧あいまい」も「あやふや」も、自分が見たものはつきりとは思いい出せないさまを表しています。

(4) 同じ段落の「これは何でもないことですが、やはり大きな発見だと思います」に着目して、「これ」が指し示している内容に合ったものを選びます。

(5) 「私」が地方を旅行したときに、小学生による観察記録の展覧を見たという出来事について語られている前半と、そこから生まれた、人間の物の見え方はいろいろで、たくさんの貴いものや発見されるべきものを見損みこなっているのではないかという思いが述べられている後半とに分けられます。

(6) アの「同じものを何度も自分の眼で確認する必要がある」という内容は、本文中で述べられていません。